

共通意識を持った高等学校の道德教育の展開に向けて

「発達の段階に応じた道德教育を展開するための視点」を活用して、共通意識を持つことが、道德教育の更なる充実につながります。

◎各教科・科目等で道德教育を展開する際に、高校生の発達段階にふさわしい指導となるように教師が押さえておくべき事項を「発達の段階に応じた道德教育を展開するための視点」としてまとめました。この視点を把握して、全教師が各教科・科目等の指導において高校生の発達段階にふさわしい道德教育を行うという共通意識を持つことで、道德教育の更なる充実が図られると考えます。

「発達の段階に応じた道德教育を展開するための視点」
○人間としての在り方生き方に関する教育への意識
○自校の道德教育全体計画と発達の段階の確認
○各教科・科目等の指導と道德教育のつながりへの意識

Ⅰ 「発達の段階に応じた道德教育を展開するための視点」を活用した道德教育の指導

○ 人間としての在り方生き方に関する教育への意識

高等学校の道德教育では、人間としての在り方生き方について生徒に考えさせる指導を行い、自己実現に資する教育活動を展開することが大切になります。自分にふさわしいよりよい生き方を、選択可能ないくつかの生き方の中から選ぶ上で、自分自身に固有な選択基準ないし判断基準を生徒に持たせることが求められます。

道德教育の目標（高等学校学習指導要領 平成30年告示 解説 総則編より）
『道德教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき生徒が自己探求と自己実現に努め国家・社会の一員としての自覚に基づき行為しうる発達の段階にあることを考慮し、人間としての在り方生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道德性を養うことを目標とすること』
・在り方：自分自身に固有な選択基準ないし判断基準
＝人生観，世界観，価値観
・生き方：在り方を基に、どのように生きていくかの選択

○ 自校の道德教育全体計画と発達の段階の確認

自校の道德教育全体計画に示している教育目標や道德教育重点目標で目指している生徒像と発達の段階を踏まえた実態把握、道德科の学びへの理解から各教科・科目等での指導を想定します。

(1) 自校の道德教育全体計画の確認

自校の道德教育全体計画に示している教育目標や道德教育重点目標で目指している生徒像を確認し、その生徒像に向けて各教科・科目等でどのような指導ができるのかを想定します。（次項図1参照）

共通意識を持った高等学校の道德教育の展開に向けて

図1 令和〇年度 宮城県 〇〇 高等学校道德教育全体計画

校訓	「自律」「誠実」「勤勉」		
関係法令	教育目標		道德教育の推進体制
・日本国憲法 ・教育基本法 ・学校教育法 ・学習指導要領	豊かな情操と高い品性並びに国際的視野を持ち、自他の人格を尊重し、勤労を愛し、常に研究的で実践力に富み、健康で知性に富む、明朗にして逞しい社会人を育成する。 基本方針 ・「確かな学力」を身に付け、生徒の志望を達成させる教育。 ・社会人として自立できる人間づくり。 ・生徒、保護者、地域から信頼され、選ばれる学校づくり。		各校務分掌の取組
社会の要請・地域や生徒の実態等			総務図書部：学校行事や集会を通して集団行動意識の高揚を図る。読書活動を通して考え方や生き方についての視野を広げる。芸術鑑賞会により豊かな感性の育成を図る。 教務部：各教科科目の学習を通して道德教育を行う。また、情報教育を通じて情報モラルを育成する。 進路指導部：キャリア教育を通して自己理解、在り方生き方についての考えを深める。 生徒厚保部：社会規範を遵守する意識の高揚を図る。健康・安全教育を通して心身の健康管理意識を高める。
生徒の実態：活動的で協調性に富む。礼儀正しく誠実で頑やか。地域の願い：郷土理解と郷土愛の育成。地域社会の活性化への貢献。地域を支える人材育成。保護者の願い：社会人としての自立。学力向上と部活動の両立。希望進路の達成。	志教育		各学年の目標
将来にわたって活躍できる土台（「高い志」と「意志決定力」）を備え、地域を支える人材の育成。	道德教育の重点目標 1 人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を培う。 2 公共の精神を貫き、民主的な社会及び国家の発展に努める人間を育成する。 3 伝統と文化を尊重し、それらを育ててきた郷土を愛し、地域社会に貢献できる人間を育成する。 4 他国を尊重し、国際社会の平和と発展や環境の保全に貢献する人間を育成する。 5 教養を身に付け、社会人として自立した生活が送れる人間を育成する。 6 思いやりの心を持ち、多様な他者との協働が図れる人間を育成する。		1 学年：高校生活への適応、基本的な生活習慣の確立、キャリア教育と進路意識の涵養。 2 学年：基本的な生活習慣の確立、自治能力の強化、キャリア教育と進路意識の高揚。 3 学年：自主的自立的な生活態度の育成、キャリア教育と将来の生活設計。

目指す生徒像に向けて各教科・科目等でどのような指導ができるのかを想定する。

「学びに向かう力・人間性等」についての目標を基に道德教育としての取組や目標等を記入する。

各教科・科目、総合的な探究の時間、特別活動における関連			
公民科	国語科	地理歴史科	数学科
よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、	言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、	地理や歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度や粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、
特別活動	理科	保健体育科	芸術科
自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、主体的に集団や社会に参画し、生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、	自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度、	生涯にわたって継続して運動に親しむとともに、	生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、
総合的な探究の時間	外国語科	家庭科	情報科
探究に主体的・協働的に取り組むとともに、	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするともに、	情報と情報技術を適切に活用するとともに、

共通意識を持った高等学校の道德教育の展開に向けて

(2) 発達の段階を踏まえた実態把握

生徒の道德性に関わる発達（「発達の段階一覧表」）を踏まえて実態を捉え、生徒の思考を深められるような指導を考えます。

(3) 道德科の学びへの理解

生徒は、小学校、中学校の道德科で、表1のような道德的諸価値についての理解を基に自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を行っています。（高等学校学習指導要領解説総則編P275参照）高等学校では、これまでの道德科での学びを前提として人間としての在り方生き方を考える教育を行います。

表1（高等学校学習指導要領解説総則編P275より一部抜粋）

中学校（22）	
(1) 自律の精神を重んじ、自主的に考え、判断し、誠実に実行してその結果に責任をもつこと。	自主，自律，自由と責任
(2) 望ましい生活習慣を身に付け、心身の健康の増進を図り、節度を守り節制に心掛け、安全で調和のある生活すること。	節度，節制
(3) 自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追求すること。	向上心，個性の伸長
(4) より高い目標を設定し、その達成を目指し、希望と勇気を持ち、困難や失敗を乗り越えて着実にやり遂げること。	希望と勇気， 克己と強い意志
(5) 真実を大切にし、真理を探究して新しいものを生み出そうと努めること。	真理の探究，創造

○ 各教科・科目等の指導と道德教育のつながりへの意識

各教科・科目等における「学びに向かう力・人間性等」についての目標が、道德教育に深く関わります。各教科・科目等の指導で、単元内に道德教育と関連が図られる項目があり、自校の教育目標や道德教育重点目標の達成に資すると考えた場合には道德教育を意識した指導を想定しておきます。

公民科『公共』の学びに向かう力、人間性等に関わる目標

「よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。」

共通意識を持った高等学校の道德教育の展開に向けて

2 「発達の段階に応じた道德教育を展開するための視点」を活用した道德教育の指導想定

(1) 道德教育の指導想定例

・道德教育重点目標

「教養を身に付け、社会人として自立した生活が送れる人間の育成」

- ・発達の段階（「発達の段階一覧表」）を踏まえた実態把握
自ら考え主体的に判断し行動する生徒の様子が見られる。

「発達の段階一覧表」抜粋

高学年	中学校	高等学校
・自律的な態度が発達し、自分の行為を自分の判断で決定しようとするに伴い、責任感が強くなり批判的な能力も備わってくる。	・自我に目覚め、自分の判断や意志で生きていこうとする自律への意欲が高まるとともに、人間としての生き方についての関心が高まってくる。	・自ら考え主体的に判断し行動することができるようになり、人間としての在り方生き方についての関心が高まってくる。

自律的な考え方

・道德科の学びへの理解

自主，自律，自由と責任について「自律の精神を重んじ，自主的に考え判断し，誠実に実行してその結果に責任をもつこと」を学んでいる。

- ・公民科「公共」の目標及び単元『自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち』が道德教育重点目標で目指している生徒の育成に深く関わる。



道德教育としての指導内容，指導方法等

公民科「公共」で『契約』を扱う際に，契約には誠実にその契約を実行する責任が伴うという，信義誠実の原則があることについて，社会の一員であるという自覚を基に考えさせる。指導方法としてグループ活動を取り入れ，多面的・多角的に思考する場面を設定する。

(2) 道德教育の指導想定をするための工夫例

道德教育全体計画に示してある事項と「発達の段階に応じた道德教育を展開するための視点」を基に，各教科・科目等で道德教育を行う際に活用するシート等を作成します。各教科・科目等の指導で，単元内に道德教育と関連する項目がある場合に活用します。同じシートを全教師で活用することで共通意識を持つことにもつながります。（次項図2参照）

共通意識を持った高等学校の道德教育の展開に向けて

図2 高校道德シート

本時の主題	
「人間としての在り方生き方」を考える教育が指すこと	
自分にふさわしいよりよい生き方を，選択可能ないくつかの生き方の中から選ぶ上で，自分自身に固有な選択基準ないし判断基準を生徒に持たせること。	
1 道德教育重点目標	2 発達の段階（高等学校）
目指す生徒の姿	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら考え主体的に判断し行動することができるようになり，人間としての在り方生き方についての関心が高まってくる。 ・幅広い見方による普遍的な思考ができるようになる。 ・行為の結果と行為の動機どちらも踏まえて，深い思索ができるようになる。 ・人間としての在り方生き方について，様々な価値と関わらせながら，多面的・多角的に考えることができるようになる。 ・国家社会の一員としての自覚に基づき，考えることができるようになる。
3 各教科，科目等と道德教育の関連	
4 本時での道德教育に関わる場面・指導方法等	

道德教育全体計画と同じ内容が入る

ニヶ所については各教師が記入

記入例（特別活動：ホームルーム活動「キャリア形成と自己実現」）

4 本時での道德教育に関わる場面・指導方法等
<ul style="list-style-type: none"> ・第一希望の企業が，求める人材像に合致することを合格条件にした場合，企業が求める人材像に合うように自分の特性を高めるか，自分の特性に合った企業を選ぶか，その他も含めて選択することを通して自己実現について考える。 ・グループ内で発表し，様々な価値観に触れ生き方についての思索を深める。